

第6学年 かがやき学習指導案

平成13年12月7日(金)第5限
場所 6年生教室
指導者 鵜飼 節夫
京都市立有濟小学校 岸本 直樹

- 1 主題名 「ケナフでつながる、ひろがる」
—中郷弁当を紹介しよう—
- 2 目標

- (1) ケナフを育てる活動から、様々な活動に広げていけるようになる。
- (2) 宇気郷地区でケナフを育てる活動を通して、地域のお年寄りと接し、宇気郷地区とお年寄りの生活に関心を持つようになる。
- (3) ケナフを共同で育てている学校との交流を通して、自分の思いを相手に伝えたり、相手の気持ちを理解したりするようになる。
- (4) ケナフを使った料理、地域の食材を使った料理を考えることを通して、食に関心を持ち、自分の食生活を見直すようになる。
- (5) コンピュータやインターネット、電子メールを学習の道具として使えるようになる。

3 主題について

子どもたちは、昨年度のかがやき学習「ケナフを育てよう、中郷で、全国で」で、主に次の3つの活動に取り組んだ。

1つは、中郷地区のお年寄りと交流をしたことである。子どもたちは、中郷地区にお年寄りだけで暮らしてみえる家の庭先や畑をお借りして、共同でケナフを育てるために何度もお宅を訪問し、いろいろなことを体験したり教えていただいたりした。

2つは、京都市立有濟小学校と深い交流ができたことである。中郷小から種を郵送した学校の1つである、当時5年生の8名とケナフの成長についてや学校の様子、学校周辺の地域の様子などについて、TV電話や電子メールを使って学習交流を重ねてきた。

そして、3つは、ケナフでいろいろな物をつくったということである。ケナフの若

葉で料理、クッキー・菓づくり、皮を使っての紙すきなどである。インターネット上でケナフで様々なことができると知り、意欲的に取り組んだ。

また、子どもたちは、かがやき学習「自分の食事をふりかえろう」を通して、給食や家での食生活を見つめ直し、食事の大切さや、栄養と健康の関係などについて学んできた。

本年度は、これら昨年度の取り組みを継続させるものとなった。



<宇気郷でケナフを育てよう>

昨年収穫した、たくさんのケナフの種を前にして、子どもたちは全員、今年もケナフを育てていきたいと言い出した。話し合いが進み、今年、宇気郷地区で育てることになった。

子どもたちは昨年度、学校行事の「宇気郷体験学習」でこの地区を訪れ、全校縦割り班ごとに地域の方々と、お茶摘み体験、しめじづくり見学、パイゴマづくり、ゲートボール体験などの活動を行った。子どもたちは、この時訪問した家を含め、ケナフを共同で育てていただく家をたくさん探したいと言いだした。

5月1日、宇気郷を訪れ、字ごとに子どもたちが4つの班に分かれて、地図を頼りに各家を訪問し、ケナフを共同で育てていただける家探しをした。ケナフという植物がどんなものなのか、なかなかわかっていただけないかもしれないので、宇気郷の方々に説明できるようにチラシをつくって持っていった。

その結果、約30軒の家から承諾をいただいた。

ある家ではこの日に種を直播きしていただいたり、次に宇気郷におじゃましたとき、ケナフの苗を植えさせていただく約束をしたりすることができた。

5月28日、再び宇気郷を訪れ、先日おじゃました家を担当の子どもたちが訪問し、直播きしたケナフの様子を調べたり、持参した苗を植えさせていただいたりした。



<全国発芽マップ2001>

全国で約200校の学校が、5月19日の午前10時に同時に種まきをして、その成長の様子についてインターネットや電子メール上で情報交換をする活動が始まった。今年も中郷小学校の6年生が参加した。

種まきの日までに、全国の学校からケナフの種の請求が来て、子どもたちが種を数え、手紙と一緒に合計25校に郵送した。

郵送先の学校から、お礼のメールやファックスが届き、交流したいという依頼も多くあった。

(発芽マップ2001のサイト)

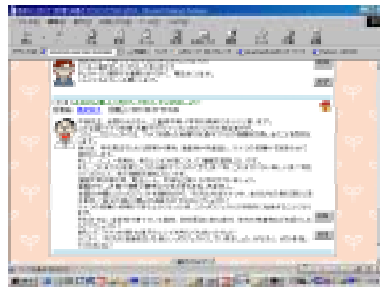
<http://www.fes.miyazaki-u.ac.jp/HomePage/kyoudoupuro/hatuga13/hatuga13.html>

<全国ケナフ料理・お菓子づくりマッププロジェクト>

全国発芽マップのインターネットサイト上に、このプロジェクト専用の掲示板を開設した。この掲示板を利用して、ケナフを食材として使った料理・お菓子に関する情報を交換する場にした。

全国の仲間がケナフとそれぞれの地域の食材等を使った料理・お菓子を考えることで、子どもは食材に強い関心を持つようになるのではないかと考えたのである。

このプロジェクトで、京都市立有済小学校、中郷小同名校など、中郷小からケナフの種を発送した全国の各小学校と食に関する交流学习に取り組みたいと考えた。子どもたちは家庭科の時間に、育ってきたケナフの若葉を使った、ケナフ入り卵焼き、ケナフ入りみそ汁などを作り食べた。また、学校栄養職員の横田先生にお願いをして、7月10日の町内全体の給食(約2千食分)に、中郷小学校のケナフを使った「ケナフ入りちくわ天ぷら」を出していただいた。これらの活動は、この掲示板で公開した。



(ケナフ料理・お菓子づくりマッププロジェクト掲示板)

http://map2k.robox.org/mb.cgi?u=&p=&F=V&F2=&mb_id=10

<京都市立有済小学校との交流>

昨年、中郷小学校からケナフの種を郵送したことから始まった、京都市立有済小学校との交流が2年目を迎えた。

交流学习が一層深まり、お互いが直接会いたいという思いが強くなってきた。

平成13年度中郷小学校の修学旅行では、京都へ行くことになっていたのですが、この機会を利用して実際の交流ができないか両校で調整し、5月19日(土)の午前中に、有済小学校を訪れることになった。

有済小学校の全校児童38名による歓迎式の後、両校の6年生だけでドッジボールとサッカーをして遊んだ。

この2つの種目については、事前のTV会議の中で、どんな遊びがしたいかについて両校で話し合った結果であった。

その後、午前10時に今年の全国発芽マップの一斉の種まきに合わせて、両校の6年生が共同して中郷小学校から持っていったケナフの種をまいた。

次に、両校の子どもたちが3つのグループに分かれて、有済小学校から清水寺までウォークラリーを行った。京都らしいところや有済小学校の子どもたちのおすすめの場所を中心に歩いて歩いた。どのコースを歩くかについては、昨年度末に学校周辺の学習交流をしたときの場所を見学できるように、事前に有済小学校の子どもたちが考え



たものであった。

子どもたちはいろいろな話をしたり、記念写真を撮ったりしながら楽しい時間を過ごすことができた。

ゴール地点で、プレゼントを交換し、またの再会と今後引き続いての学習交流を約束して別れた。



夏休み中の8月7日、今度は有済小学校の子どもたちが中郷小学校を訪問した。1学期末にTV会議やメール交換を繰り返し、この訪問の計画を立てた。昼食にケナフ料理、山菜おこわを合同で作り、プール水泳、中郷の子どもたち4軒の家に分かれての「ミニホームステイ」を実施した。両校の子どもたちは、以前よりも強い絆で結ばれた。



<同名校交流「中郷小」ネットワーク>

子どもたちが昨年度、学習中に偶然見つけた県外の同名校と交流したいという願いを実現させるために、全国の「中郷小学校」9校に、同名校交流プロジェクトへの参加依頼の書類を郵送した。

その結果、下図の4校から同意の返事を受け、「同名校交流」が始まった。子どもたちは、この4校にもケナフの種を郵送している。



鳥取県中郷（ちゅうごう）小学校でのケナフ種まき

<宇気郷宿泊体験学習>

子どもたちは、「宇気郷でケナフを育てよう」の活動で、何度か宇気郷を訪れ、自分が担当するお年寄りの家を訪問し、お年寄りの方々からいろいろなお話を伺ってきた。その中で、子どもたちは「もっと長時間宇気郷にいたい」「もっと話をゆっくりと聞きたい」と思うようになってきた。

そこで、指導者は、次の2つを実現させるには、「宇気郷ホームステイ」が一番適しているのではないかと考えた。

宇気郷のお年寄りの方々とのふれあいを通して様々なことを学ぶ。
宇気郷の食材を生かした食事を通して自分の食生活を見直す。

6月28日、宇気郷の10軒のお宅に1泊のホームステイを引き受けていただいた。ある家では、おじいさんとイノシシの肉を網焼きして食べ、野生の動物が農作物を荒らしていくことを教えていただいた。また、別の家では、おばあさんとズイキ（乾燥サトイモの茎）を使った、宇気郷地区でしか味わえない巻き寿司をつくって食べることができた。

学校給食で好き嫌いが多くてよくおかずを残してしまう子どもも、この宇気郷での食事は残さずに「おいしい」と言ってたくさん食べられた。

宿泊後の子どもたちの日記には、「もう一日泊まりたかった」、「宇気郷に住んでみたいと思った」という記述がたくさんあった。

<畑でとれた野菜を天ぷらに>



<ズイキを使った巻き寿司>



<宇気郷学習発表会>

宿泊体験学習の2日目、6月29日、旧宇気郷小学校（現宇気郷公民館）で、全校児童による「宇気郷学習発表会」を実施した。

6年生の子どもたちは、「宇気郷でケナフを育てよう」で、自分たちがこれまでどのように宇気郷の方々と接し、ケナフを育てるようになったかについての劇を発表することになった。

宇気郷の字ごとに分かれて行動している4グループごとに、事実をもとにしたミニ劇を4つ発表するということになった。

4グループともにシナリオを書き、小道具や大道具を作り、実際に宇気郷の方々とふれあってみないとつかめないような、人のあたたかさがあふれた劇が完成した。



劇はどれも盛況で、大勢の方々から笑いや拍手がわき起こった。特に、前日にホームステイさせていただいた家のおじいさんやおばあさんからは、「まるで、自分の孫が一生懸命演技したような気持ちになった。」「昨日の姿とはまた違った子どもの様子が見れたので良かった。」というようなお言葉をいただいた。

また、劇中に子どもが演じる形で登場してきた宇気郷の方々もこの劇を見て、「私はあんなこと話したんやな。子どもの観察力はすごいな。」「自分を演技してくれて涙が出るくらい嬉しかった。」と感想を話されていた。

<給食交流>

2学期が始まった最初の給食の時間に、夏休みに中郷を訪れた有済小学校の子どもたちの食べっぷりのよさが話題になった。そして、「有済小学校の2学期の給食はいつから始まるのか?」「どんな給食を食べているのか?」聞いてみたいと言いだす子どもがでてきた。

早速、次の日から、その日の給食の時間の様子についてメールを書き、給食メニューの画像を添付して有済小学校に送り始めた。有済小学校からも、同じように返事が返ってくるようになった。

このメールによる給食交流は、有済小学校だけにとどまらず、「中郷小」同名校5校間に開設されている、メーリングリスト「仲間ネットメーリングリスト」によっても行われるようになり、全部で6校間で給食に関する情報交換を行った。

10月上旬、有済小学校と、給食TV会議を行った。TV電話の前で、両校がいただきますをし、給食を食べながら、子どもの司会で会議をすすめた。その日の給食のメニューを紹介しあったり、給食に関するクイズを出し合ったりして、楽しい給食の時間を過ごした。



<中郷の食材を送ろう&クルミ交流記念植樹>

春、中郷で昨年採れたケナフの種と他の種類のケナフの種を交換した、北海道花岡小学校から、学校の畑で採れた新鮮なジャガイモが届いた。

また、広島県東野小学校からも、セイタカアワダチソウやススキでつくった交流ハガキが届いた。子どもたちは、ケナフ以外の雑草で紙が作れることがわかった。

子どもたちは、お礼に何か送りたいと思うようになったが、何を送ろうかと考えていた時、ある子どもの祖母から、「うちの畑の枝豆を採りに来ないか」とお誘いを受け、枝豆を採らせていただいた。

また、その祖母から、クルミが採れる畑が中郷地区にあるという話を聞き、クルミ畑の持ち



主にお願ひして、クルミを採らせていただいた。

●ケナフを育てている学校



有済小学校、花岡小学校、東野小学校、4校の同名中郷小学校の計7校に、この枝豆とクルミを宅配便で送った。クルミについては、食用と植え付け用の2種類を送った。

植え付け用のクルミを送ったのは、枝豆をいただいた祖母の発案で、「交流校全部で記念のクルミの苗を卒業記念樹にしたらどうか」ということからであった。子どもたちもこれに賛成し、メールで呼びかけた。福井県中郷小学校からの提案で、11月1日に7校一斉に実を植えることになった。

各学校から、枝豆とクルミが届いたというメールや、調理して食べたというメール、クルミのみを植えたというメールが届いた。



<花岡小学校より>



<福井県中郷（なかごう）小学校からのクルミだより>

<地域のお年寄りとのふれあい給食>

10月16日、地域のお年寄り14名をお招きして、その日の給食と一緒に食べていただいた。子どもたちと同じ給食を食べながら、メニューに関する感想や、昔の食べ物について等いろいろなお話を聞かせていただいた。



お年寄りからは、「こんなにおいしい給食を食べるとるんやな」「肉よりも魚の方がいいな」等の感想をいただいた。

ほとんどの方が完食されたことで、子どもたちは、自分たちとお年寄りの好きなメニューには、あまり違いがないことがわかった。

そして、どの子どもも、お年寄りといろいろなお話をしながら給食を食べたのが楽しかったと言っていた。

その後、お年寄りの方々に、5限目の授業に参加していただき、今と昔の中郷の様子の違いについてや、今と昔の食べものの違い等について話し合いをした。

また、お手玉や福笑いのゲームやクイズをして楽しい時間を過ごした。



<中郷弁当をつくろう>

子どもたちはこれまでに、自分たちが育ててきたケナフを使ったお菓子や料理、ホームステイをした宇気郷の食材でつくった料理、中郷で採れた枝豆やクルミ、北海道花岡小学校から送られたジャガイモ、学校の畑でとれたサツマイモを使った料理をつくってきた。

また、子どもたちは、地域のお年寄りから、昔の食事についてや、昔から中郷でつ

くられてきた野菜について話を聞いたり、自分たちの給食について直接感想を聞いたり、有濟小学校とメニューについて情報交換をしてきたりして、自分たちの食事について考える機会を持った。

特に、中郷で採れた枝豆やクルミを交流校に送り、それぞれの学校で調理して食べたこと、中郷の食材がそれぞれの学校で喜ばれたこと、夏休み中訪れた有濟小学校の友だちに好評だった、「山菜おこわ」のことなどを思いだし、あらためて、地域の食材のよさに気づいた。

家庭科の調理実習で、「栄養のバランスを考えた副食づくり」に取り組むことになった子どもたちは、食材として、地域で採れるものを使うことにした。

また、子どもたちに、12月7日（本日）に、有濟小学校の岸本先生が来校することを告げると、子どもたちから「何かプレゼントできるものはないか」「手作りの食べ物をあげたい」と話がはずみ、「自分たちが考えた副食でお弁当をつくり食べてもらいたい」ということになった。



そこで、まず、11月17日に13人一人ずつが1品を担当し、下記のような地域の食材を使った「中郷弁当」をつくった。それぞれのメニューは、計画の段階で、学校栄養職員にも授業に入っていたいただき、助言をもらいながら作成したものであった。食材の重なりもあったが、今回は、子ども一人ひとりの食材へのこだわりと、個々に考えたメニューに取り組む意欲を大切にしたい。

メニュー名	こだわった食材	食材を選んだ理由
シイタケの天ぷら	生シイタケ	家で栽培している。修学旅行の時、有濟の友だちにプレゼントしたから。
ケナフ入りとろろ芋ステーキ	とろろ芋、ケナフの葉	家で栽培している。家でも料理していて、おいしいから。
トマトのスクランブルエッグ	卵、トマト	学校で育てているニワトリが産んだ卵と、4年生が畑で育てたトマトを使う。
特製卵焼き	卵	学校で育てているニワトリが産んだ卵だから。
キャベツとタマネギのいためもの	キャベツ、タマネギ	たまたま家の冷蔵庫にあったから。
しし肉入りチャーハン	イノシシの肉	宇気郷でイノシシが捕れるから。
サワガニの天ぷら	サワガニ	宇気郷ホームステイで食べたから。
おにまんじゅう	サツマイモ、クルミ	学校の畑で作ったサツマイモと、みんなで採りにいったクルミを使う。
煮しめ	ダイコン、干しシイタケ、サトイモ、ニンジン、レンコン	こだわった食材は全部、自分の家の畑でとれるものを使った。
ハウレンソウの海苔巻き	ハウレンソウ	自分の家の畑でつくっている。
ジャガイモのタルト	タマネギ	このメニューに使うタマネギを家でつくっている
白菜の漬け物	ハクサイ、ニンジン	自分の家の畑でつくっている。
ケナフ天ぷら	冷凍保存のケナフの若葉	全国で食べられている方法だし、去年からずっと育ててきたから。



中郷弁当をみんなで試食しながら、感想を出し合い、メニューについて話し合った。学校栄養職員から、全体的に油を使った料理が多かったのもう少し油分を減らした方がよいという指摘、赤・黄・緑の食品群のバランスと彩りがよかったという感想をいただいた。

子どもたちからは、味付けが濃かったり薄かったりしたメニューがあったことや、つくるのに時間がかかりすぎたもの、予想していた味が出せなかったものがあったことなどの意見があがった。

これらのことを改良する視点とし、さらに、もっとメニューを減らして12月7日の午前中に、もう一度中郷弁当をつくることになった。

本時の「中郷弁当を紹介しよう」の活動では、午前中につくった中郷弁当(11月17日につくったものを改良したものを)をTV電話を使ったTV会議で、有済小学校の友だちに紹介することが中心になる。

地域で採れる食材をどのように使って料理したのか、そのメニューへのこだわりや、作り方を、スタディーノートでつくったレシピを用いて伝える。

有済小学校では、事前にメールで受信してある中郷弁当のレシピ(コンピュータ画像)とTV電話の映像モニターを見ながら、質問や感想を出していくことになる。

また、有済小学校の岸本先生に、授業中に中郷弁当を試食していただき、その感想等を有済小学校の子どもたちに伝えていただくことで、TV会議がより魅力あるものになると思われる。

有済小学校側では、昨年度子どもたちの担任であった、鈴木先生が子どもたちに付き添っていただく予定である。

4 学習活動の経過及び今後の活動見通し

月	地 域	食	そ の 他
4	宇気郷でケナフを育てよう ケナフ栽培への協力要請		「ケナフ料理・お菓子づくりマッププロジェクト」掲 示板開設
5	ケナフ種まき		全国「中郷小」同名校交流 開始 「全国発芽マップ2001」 への参加 <修学旅行> 京都市立有済小学校訪問 交流活動・京都街並みウォ ークラリー・合同ケナフ種 まき ケナフの種を発送した学校 との交流活動開始
6	ケナフ苗植え付け		
6	ケナフ観察	宇気郷宿泊体験学習(ホームステイ)	
7	ケナフ観察 宇気郷学習発表会	宇気郷食材・料理体験	
7		ケナフを使った料理 ケナフ入りちくわ天ぶらをつくろう (嬉野町内全給食の1品にする)	
8			<有済小学校6年来校> 有済小学校との合同調理実習 (ケナフ入りみそ汁・山菜おこわ) 交流活動・中郷ニホームステイ
9	ケナフ観察		
9		給食交流(有済小・同名校と) インターネット上に専用ページ開設 給食TV会議(有済小と)	
10	ケナフ観察		
10		地域のお年寄りとのふれあい給食・合同授業 中郷の食材を集めて (枝豆・くるみ・落花生など)	中郷から食材を送ろう (有済小・同名校他)
11	文化祭(学習発表会) 「たくさんのふれあい」	中郷弁当をつくろう 中郷の食材にこだわって 体によい、おいしいメニューをつくる 有済小学校で紹介しよう	交流記念くるみ植え付け
12	ケナフ収穫 ケナフ種とり	食材レシピの発送 中郷小で京料理再現	有済小で中郷弁当再現 有済小「交流京料理」紹介

1	ケナフ染め物 ケナフ炭をプレゼント しよう	
2		
3	地域の方を手作り料理でおもてなし しよう(謝恩会)	有濟小学校との合同卒業記 念旅行

5 本時の学習

(1) 目標

有濟小学校の友だちに、中郷弁当を紹介し、調理の仕方や、使った中郷の食材のよさを伝えることができる。

(2) 学習過程

学習活動	指導上の留意点	支援
1. 今日のTV会議のめあてを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始前から、有濟小学校にTV電話をつなげておく。 両校の子どもたちであいさつをした後、こちらから、今日のTV会議のめあてを伝える。 <p><中郷側> 班ごとに、メニューの紹介と、作り方、中郷の食材のよさを伝える。</p> <p><有濟側> 中郷からの紹介をよく聞き、質問や意見、感想を言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (鈴木T) 有濟小の子どもたちをTV電話の前に集める。 (岸本T) 教室前方の机に向かう。スクリーン上で有濟小の子どもたちの様子を観察する。
2. 有濟小学校の友だちに中郷弁当のメニューについて紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 弁当の中の7つのメニューについて、担当した班ごとに、スタディーノートの画面を使いながら、わかりやすくプレゼンテーションできるようにする。 作り方、使った食材、うまくなるポイントなどが伝わるようにする。 岸本Tの感想の後、有濟小からの質問や意見を聞いていくようにし、中郷小の子どもたちが答えていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> (鈴木T) 事前に有濟小のコンピュータに送信してあるデータをモニターに映す。 (岸本T) 班の説明が終わってから、実食し、感想を言う。
3. 今日のTV会議の感想と、今後の活動の見通しについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 中郷小側から送れる食材をもとに、有濟小でも中郷弁当をつくらせたいと、子どもから伝えるようにする。 TV会議全体を通して、今日の感想を出し合うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> (鈴木T) TV会議で出せなかった質問について、会議終了後、有濟小の子どもたちにメールに書くようにしていただく。

滝川Tは、中郷小側のTVカメラを担当し、学習の状況に合わせて、カメラアングルを変え、有濟小へ画像を送る学習支援を担当する。

(3) 学習環境

